

第8回 鎌倉市学校整備計画検討協議会 議事録	
日 時	令和6年(2024年)2月28日(水)9時30分から11時10分
場 所	鎌倉商工会議所1階102会議室
出席委員	黒木委員、佐藤委員、實方委員、高橋委員、倉斗委員、河合委員、掛札委員、梨本委員、渡辺委員
欠席委員	なし
傍聴者	2名
出席した職員 の職氏名	高橋教育長、小林教育文化財部長、鈴木教育文化財部次長兼学校施設課長、萩原学校施設課施設担当担当係長、川村学校施設課施設担当
受託者	(株)アーバンデザインコンサルタント 清水計画部部長
内 容	(1)鎌倉市学校整備計画【案】について (2)今後のスケジュールについて
そ の 他	

事務局 (鈴木次長)	(開会に当たり、協議会委員9名中9名の出席により、過半数である定足数に達していることを報告)
内容(1)鎌倉市学校整備計画【案】について	
高橋会長	内容(1)「鎌倉市学校整備計画(案)について」事務局から説明願います。
事務局 (萩原係長)	<p>内容の「1 鎌倉市学校整備計画【案】について」を説明します。</p> <p>前回11月21日の協議会において、鎌倉市学校整備計画素案検討資料について議論をしていただき、その後、12月に庁内照会により庁内の各課から本計画に対する意見を募集し、その意見を踏まえて修正した計画【素案】につきまして、パブリックコメントを行いました。</p> <p>本日は、前回の協議会以降に行った庁内照会やパブリックコメント等を受けて修正を行った内容についてご説明いたします。</p> <p>お手元の資料1は12月に行いました庁内照会を受けて修正した内容一覧、資料2はその修正を反映した計画【素案】になりますので、修正した主な内容を1ページから順にご説明します。</p> <p>資料2の1ページ、「1 計画策定の背景と目的」をご覧ください。本計画で用いている長寿命化改修と大規模改造という用語について、それぞれの用語の定義を※で追記しています。また、「2 計画の位置付け」で本計画の位置づけを図にしておりますが、令和3年3月に策定した「鎌倉市学校施設長寿命化計画」が、本計画の基礎データとしての扱いになっていることについて、図の中に「鎌倉市学校施設長寿命化計画」を追記し整理しました。</p> <p>2ページ「5 これからの学校教育に求められる目標と施策の方向性」の2行目の「また」以降については、今後策定を予定している、新しい鎌倉市教育大綱等を踏まえて本整備計画を実施していく旨を追記しています。</p> <p>7ページ「3 現状と課題(1)施設の老朽化への対応の現状」の1点目で、以前の資料は「第一小、腰越小、深沢中には築58年を経過する建物が見られます」という記載をしておりましたが、改めて確認したところ、令和5年度末時点では腰越小の校舎が本市の学校施設としては最も築年数が経過している築59年の校舎であることが分かりましたので、この部分について修正を行いました。</p> <p>11ページ、第3章の1学校施設整備に向けた基本的考え方の(3)柔軟で創造</p>

的な学習空間の創出について、以前の資料は「コンピューター教室と組み合わせ」と記載していましたが、タブレットが導入されて以降は、必ずしもコンピューター教室と組み合わせる必要はない状況ですので、削除の上修正しました。

12ページ、(4)について、以前の資料では「児童・生徒の多様化への配慮」としていましたが、こちらを「学びの多様化への配慮」として内容もタイトルに沿った内容としました。

14ページ「2 学校の統廃合について」という項目を追記しています。この部分については前回の本協議会でもきちんと記述すべきというご指摘をいただいたことを踏まえ、現段階では学校施設の統廃合は前提としていないこと、但し、今後の人口推移に伴い、児童・生徒数が減少する状況が見込まれるなどの場合には通学区域の見直しや学校の統廃合等を含めた検討を行うということを整理して記載しました。

16から18ページにかけては各所室等の規模や配置、仕様等のポイントについて一部修正しています。例えば、17ページの管理諸室の項目にある配膳室の仕様等の欄に、搬入路のフラット化や給食の実施方式に応じた仕様とする旨を追記、その下のその他の項目にある不登校支援(校内フリースペース)の仕様等の欄に整備にあたって配慮すべき項目を追記しています。

21ページでは、区分Bの小学校として、前回までの資料では西鎌倉小学校を深沢地域としていましたが、地域としては腰越地域になりますのでその修正を行っております。

24ページから25ページにかけて建替え工事費や長寿命化改修工事、大規模改造工事費の考え方について修正・追記しています。

前回までの資料では学校建築のコスト事例から建替えの工事費は33万円/m²、長寿命化改修の費用はその6割の20万円/m²としていましたが、本市が直近で行った平成28年度の大船中学校建て替え工事での1平方メートルあたり37万円という金額を基に、平成28年度以降の建設工事費の上昇率や消費税の改正、さらに今後の建設工事費の上昇率を考慮して、建替え工事費の単価を1平方メートルあたり48万円、長寿命化改修工事費の単価を6割の29万円としました。

仮設校舎建設費に係るコストは、「鎌倉市公共施設再編計画」策定時に設定したコストに建設工事費の上昇率を考慮して1平方メートルあたり8.3万円、解体工事費は現在改訂作業を行っている鎌倉市公共施設再編計画で1平方メートルあたり4.5万円と見込んでいることから、同額を設定しています。

また、大規模改造工事については、学校施設に不具合があった際に保全を行う事後保全と計画的に点検・修繕等を行い不具合を未然に防止する予防保全の2つの手法がありますが、本市では予防保全的な工事の実績が無いことから「鎌倉市公共施設再編計画」における大規模改修費用の1平方メートルあたり17万円という金額に基づき、建設工事費の上昇率等を考慮して1平方メートルあたり23万円と設定し、一方の事後保全的な改修については、改修内容により費用が異なることから、本計画ではコストの設定は行わず別途検討するものとしています。

また、25ページ下段のスケジュールでは、本計画策定後に、ここで設定したコスト単価に基づく試算や優先順位、スケジュールの平準化を考慮して詳細な学校の整備順位を決定していく旨を追記しています。

26ページ「3 建替えや長寿命化改修以外の整備等の検討について」です

が、(1)の体育館の整備についてと(2)プール施設の整備についてに加え、(3)その他として、建替えや長寿命化改修までの間の修繕の考え方を追記しています。平成29年度から30年度に実施した「学校施設老朽化状況調査業務」の結果、早急に対応が必要となるD評価に該当している学校施設のうち未対応のものやD評価ではないものの中規模な修繕を必要とする学校施設について、本計画で定める建替えや長寿命化改修等のスケジュールや教育活動を考慮しながら、それまでの間の修繕を別途検討するものとしています。

28ページでは「コスト縮減に向けた可能性」を載せており、庁内照会の意見を踏まえ、⑥として、施設の標準化と維持管理が行いやすい施設整備という項目を追加しました。

次に巻末の資料について、前回の本協議会でもご意見をいただき、用語説明を資料として追加しました。また、整備スケジュールを第5章にあったものを巻末資料に移動しております。整備スケジュールについて、長寿命化改修を行った学校については、改修後30年間使用することが国庫補助の要件となっておりますが、B区分の学校について前回までのスケジュールでは長寿命化から建替えの期間が30年空いていなかったところがあったことや、同一年度に建替えや長寿命化改修を行う学校が4校になる年があり平準化を図ったことなどから、一部スケジュールの見直しを行いました。また、第二中学校と大船中学校について築20年目を目途に行う予防保全的な大規模改修工事が入っていなかったことでその部分を追記しました。その他、全体を通して文言の統一や年号の西暦併記を行っています。以上が、庁内照会を受けて修正した内容となります。

また、庁内照会を踏まえて作成した素案については、1月16日から2月14日にかけて広く市民の方から意見を募集したパブリックコメントを行いましたので、その実施状況についてご説明します。意見の提出は、郵便・ファックス・電子メール・直接持参のいずれかの方法で実施し、電子メール5件、直接持参3件の合計8件の意見が提出されました。

提出された意見については資料3をご覧ください。内容としては統廃合や拠点化について、建物の断熱性能や脱炭素化などの環境面、避難所となる体育館への空調設備設置などの防災面、コミュニティスクールについてなど施設整備に向けた考え方のほか、建替えや長寿命化改修までの維持管理に関する考え方などになります。

パブリックコメントで出された意見のうち、No2については、現在、改訂を行っている鎌倉市公共施設再編計画の地域拠点校に関する変更内容を反映するようというご意見でしたので、現在の改訂内容に合わせて資料4の1ページ及び2ページのとおり修正を行う予定です。また、資料4の3では、コミュニティスクールについて、具体的には本計画策定後に学校毎に検討をしていくこととなりますのでこれまで記載はしていませんでしたが、現在コミュニティスクールに関して取り組んでいる状況があることやパブリックコメントでも意見をいただいたことから、(6)学校と地域が支え合う共創空間の創出のウに追記を行う予定です。資料4の4ページでは、施設再整備の概念図の区分Cの図と備考欄について、区分Cは定期的な改修により長寿命化を図る方針としていますが、こちらの図と備考欄がその内容と合っていないため修正を行います。また、資料4の5ページ(3)について、トイレの環境改善について近年課題として取り上げられることが多いこと等から、洋式化について追記を行うものです。以上で説明を終わります。

高橋会長	ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。
梨本委員	<p>13ページの「ス 不登校の未然防止・不登校児童生徒の支援」(ア)に「空間」とありますが、これは校内フリースペースの事を指すのでしょうか。</p> <p>また、不登校支援という言い方が気になったのと、13ページの「ス 不登校の未然防止」のところで、「児童生徒」となっているので、「児童・生徒」と中点を入れた方が良いと思います。</p> <p>それと13ページ(4)の(ア)と(イ)の書き方として「自分の学級に入りづらい児童生徒が」というところは児童生徒の目線になっていますが「一時的に居場所として活用できる空間」というのは、児童・生徒が活用できるというより指導に活用できるのではないかなと思ったので、この辺りの文章が誰目線なのかということについて修正が必要と思いました。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>校具体的にこれから校内フリースペースという形で整備をしようと動いている部分があり、この辺りの表現は整理し、修正していきたいと思います。また、どこを主体に置いているかという部分の表現の仕方も含めて整理させていただきたいと思います。</p>
梨本委員	<p>それと17ページの不登校支援の部分で、「一般的な教室とは異なる雰囲気を持つ空間」というと、おどろおどろしい印象もあるので、少し表現を見直していただければと思います。</p>
倉斗委員	<p>私も梨本委員が言われた部分が引っかかったところです。17ページの表の不登校支援(校内フリースペース)とか、13ページの表現も教室に入りづらい児童・生徒がとなっていますが、実情を考えると教室に入りづらいだけではない理由もあるのかなと思います。実際にそういうお子さんと話してみると、教室が嫌な訳ではなくて、もやっとしている部分もあり、明確に教室に入りたくないとか、学校に来づらいという理由も分からないといったお子さんも結構いると思うと、校内フリースペースのような表現が良いと思いました。</p> <p>17ページの表にある「多様なニーズがあることに配慮」といった表現の方が良いのかなと思っていたのですが、「一般的な教室とは異なる雰囲気を持つ」の部分は確かに気になりました。あと「周囲の目に触れずに過ごす」ことが果たして望まれているのかというのは、大人がそうだろうと思っている部分もあり、別に後ろめたいわけでもないのかなとも思うので、表現が気になりました。</p> <p>それと、統廃合の話に書くかどうかということではありますが、今後、鎌倉市として義務教育学校や小中一貫校の動きが可能性としてあるのであれば、そういう部分も将来的なこととしてどこかに触れておいた方が、もしそれが議論されるときに書いてあることが重要かと思いました。</p> <p>また、ハード面の24、25ページあたりで、ここに書いてあるように建築工事費が非常に高騰している中、中長期で考えた公共施設マネジメント計画がなし崩しになっているというのは全国的な状況だと思いますので、見直しをするという説明は良いと思うのですが、予防保全の話で、今までの事後保全的な整備の仕方をしてきたものを予防保全に切り替えていくことで、コスト的にもメリットがあるということを書いておくことも必要かと思いました。</p> <p>スケジュールについては、そろそろ寿命だから急がなくてはならないのですが、色々な事情で詰まってしまい、工事や設計の期間が短くなってしまうことがあります。そうすると、今、業者の人手不足に加え、働き方改革もあり、余裕を持って工期をとらないと間に合わないことになり、工期的に無理な工事は仕事とし</p>

	<p>て取りたくないという業者が非常に増えており、早めに探りを入れながら始めていかないと、実際に間に合わなくなってしまいます。そのような事から、早めの計画を立てていくということは、書くかどうかは別として気にされた方が良いでしょう。</p>
高橋会長	<p>ありがとうございました。お二人のご専門の立場からのコメントについて、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>校内フリースペースの考え方などは先程ご説明したように整理をさせていただければと思います。</p> <p>義務教育学校や小中一貫校についてですが、鎌倉市は小中連携という形を取っているということもあるので、どこまで具体的にこの計画に書き込むかというのはあるのですが、少し整理をさせていただき、今の時点で将来的なものとして書き込むことが難しいとなるかもしれません。</p> <p>それと、予防保全で行うことでコスト的なメリットが要素としてあると思いますので、そこは整理をさせていただければと思います。</p> <p>最後の業者の方にも配慮するというのは当然考えなければいけないことで、庁内の体制についても、これから具体的に進める段階で、色々と厳しい状況も見えてくると思いますので、庁内で整理していく必要があると思います。</p>
倉斗委員	<p>補足しますと、プロポーザルで案を募集しても、都市部の自治体でも案が集まってこないという状況であり、私も審査員をやるのですが、ここまで出ないかというくらい案が少なくなっている状況です。そういう意味でも設計事務所などにとっては、設計の期間がしっかりと取られているかということや、元々公共事業なのでそこまで利益率が高いことは望んでいないと思うのですが、自治体としてどういうものを求めるのかというメッセージ性が高いと、設計する側もこのようなものを建てたらいいのだという予測がつくので、案として提案しやすいです。例えば、オープンスクールか否かなど方針がよくわからない仕様だと、賭けみたいな感じになってしまう。色々そのような話が聞こえてくるので、今後、具体的に進めていく中で、市としてどういう学校を建ててほしいと示すことも重要になると考えています。</p>
高橋会長	<p>私もコンペの審査をやるがありますが、なかなか大変なようです。工期の問題は皆さんのご意見を伺えば、その分、期間が伸び、発注が遅くなっていきます。そうすると、今言ってくださった計画を守るというのなかなか難しくなるので、簡単なことではないと思います。年間に1校ずつ着手したとしても30年近くかかる計画ですので、どうやって進めていくのか検討が必要かなと思います。</p>
渡辺委員	<p>1月1日の能登半島地震において、被災地の大変な状況を目にします。今そういう時期にこの計画を作っていると、市民の目として防災面のことはかなり気にしているのではないかと思います。</p> <p>7ページの課題にあるように、「学校施設は災害時には地域の避難所になるということから、防災上の観点から求められる必要な対応については、本計画と調整を図りながら並行して検討を進める必要がある。」としています。こういうことを書いてあるのは良いのですが、26ページにあるように具体的な評価が出ているのであれば、体育館やプールなど、具体的に出しておいた方がわかりやすいと思います。体育館の問題は前にもお話したように、冬は限りなく寒く、夏は限りなく暑い状況です。冷暖房の設置という話も聞いたことはあるのですが、やはりトイレがないとか色々課題が出ているので、能登半島地震が起きた直後だけに、皆さん関心を持っていると思います。</p>

<p>事務局 (鈴木次長)</p>	<p>計画(案)を作った時は、当然ながら年明けの震災を想定していたわけではなかったのですが、現状としてそういう課題があるという認識は持っていましたので、必ずしも学校の建替えや長寿命化に合わせなければ整備しません、ということではないということを記述させていただいています。こういう社会状況に変わっている中で、改めて書き方は整理させていただきたいと思います。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>首都直下地震が今後30年以内に70%の確率で発生すると言われている状況なのだから、やはり学校施設が防災に果たす役割は大きいので、せっかくこの時期に計画を作るのだから、そこは意識して書いておいた方が良いでしょう。</p>
<p>事務局 (高橋教育長)</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。能登半島の地震は、我々も反省や教訓にしないといけないと思っているところです。具体的にはやはりトイレの話があるかなと思っています。施設という観点からは少し離れるかもしれませんが、今、洋式化も鎌倉に関わらず各自治体が進めている状況ですが、どうしても校舎内のよく使うところから整備が進んでいるのが実情だと思います。防災という観点で言うと、体育館が避難所になる中、トイレが困ったという部分があり、鎌倉市からも支援したところですが、体育館のトイレの洋式化というのは遅れがちになってしまう部分があるのですが、計画書の書き方は、今日の指摘を受けて私の方でもしっかり検討させていただきますが、一方で喫緊の課題だと思うので、それはそれでぜひ進めていきたいなという思いです。</p> <p>また、体育館の特に夏場の冷房について、やはり構造全体で考えていかないと、クーラーをつければ冷えるかということ、なかなかそういう状況ではないというのが実態であり、まさに整備計画の中で考えていかなければならない部分だと思いますので、防災については色濃く、始められるところはすぐにでも取り掛かっていきたいという思いです。</p> <p>また、先ほどの不登校の関係で色々ご指摘をいただきましたが、こちらも見直させていただきます。</p> <p>これも少し施設の計画から離れることかもしれませんが、鎌倉市ではフリースペースを全校に3年間かけて整備していくことを考えています。その中で、スペースだけではなく、サポーターを配置して子どもたちの止まり木のような場所にしていきたいということで、そこでエネルギーを蓄えて、また学校に向かっていく力を回復していけるような場所になればという思いです。</p> <p>それに加えて、学びの多様化学校ということで、御成中学校の分校という形で来年4月に定員30名ほどで、学校にはなかなか行きづらいけれども、学校らしくないこういう場であれば行けるというような子どもたちが自分らしく成長していくような学びの場を実施しようと思っています。こちらはリースという形で由比ガ浜の市有地に2階建ての校舎を建て、校庭等は中学校と共用していくという考え方で学びの場を作ろうと思っています。</p> <p>今日ご指摘いただいたように、不登校と一口で言っても、多様な子どもたちについて我々は考えていく必要があると思っており、子どもたちの学びの特性や個性というのが様々なため、大人が不登校だとか、こういう理由だというのは、なかなか一概に言えない部分があるので、計画の書きぶりは我々も配慮させていただきながら、学びの多様化学校もそういった学校に行きづらい子どもたちの選択肢の一つであって、完全な解ではないと思っています。黒板や机がないというような、いわゆる学校らしくない場になっていくのだろうと思っていて、我々も悩みながら作っているところです。</p>

高橋会長	<p>2つのテーマについてコメントいただきました。渡辺委員はこの委員会を始めた当初から防災の観点で意見をいただきましたが、今回、ご心配の通り大きな災害が起こり、切迫した状況だと思っています。</p> <p>震災による避難時の状況などを調べる重要な課題があると思います。皆さんが正月に学校に押し寄せてきたのに校舎が閉まっており、ガラスを割って入ったとか、職員室の重要な書類とかが大変なことになったという状況があったようです。</p> <p>国の学校施設の会議もこの3月で終わる予定でしたが、防災面で審議し直す観点があるのではということで、委員の委嘱も延長されるなど、想定を超えたことだと国も認識しているようです。</p> <p>他にご意見やご質問は何かありますか。</p>
黒木委員	<p>災害ナースとして派遣された同僚の話では、体育館が冷蔵庫の中のような状況で大変だったということを知りました。能登も災害対策を色々考えてはいたけれど、現実的にはトイレの問題も難しいということで、事前にやっても追いつかないというのが震災なのかなと思っています。</p> <p>はっきり言って、行政よりも地域の町内会長や住民の方が避難所の振り分けとかは上手にできたということと、コンセントはあるのに、全部使うとブレーカーが落ちるという状況だったそうです。そのため暖房が全然使えない状況で、せっかく設備があっても実際には使えなかったということで、日頃のチェックが大事なかなと思いました。あと、家の長男が中学のバレー部で、色々な学校に遠征に行くようになり、トイレが気になって見たりすると、鎌倉はまだましかなと思うほど、校舎のトイレはきれいなのに、体育館のトイレはまだ男女共用もあつたりします。</p> <p>来年1年生になる子どもは、小学校の和式トイレを使ってごらんとわれ、みんなは嫌だと言っていたらしいのですが、家の娘は使えたようで、保護者として日頃公園で使うのをやめなさいとはしていなかったもので、親として評価されたところかなと思って嬉しかった出来事でした。</p>
佐藤委員	<p>息子が車椅子で登校した時期があり、教室が4階のため、私が息子を4階までおんぶをして上げるのは大変でした。災害時の避難所が体育館だけだったら良いのですが、上の階に上がるところもあり、小学校でもスロープ等を考える必要があると感じました。また、今のブレーカーの話ですが、富士塚小の体育館はまさにそれで、夏とかスポットの冷風機をつけるとブレーカーが落ちるようで、制限なく利用できるというと思います。</p> <p>学校の体育館は避難所にもなるので、車で避難する人もいて、そういう場合は校庭のトイレを使ったりするので、今は外のトイレは汚いのですが、お年寄りや小さな子がみんな使えるようなトイレは必要だと思います。また、外のトイレに電気は必ずつけてほしいと思います。今はコンクリートの塀の中にトイレがあるので、トイレに行きたくても怖いから行かないで家まで我慢するという子もいるので、外のトイレの整備もしていただけたらと思います。</p>
實方委員	<p>皆さんが防災の観点で色々お話されており、家は深沢小・中学校になり、校舎が古いという点ではありますが、他の学校と比べると多少安全なエリアになります。内陸部で津波の影響もほぼ受けることもなく、山沿いではありますが、崩れてしまうほどの状態ではありません。そのため、施設が整っていれば、子どもたちも地域の人も安全に使えるのではと思っています。ただ、校舎内を見ると学習スペースが狭いというか、中学校で子どもたちも成長して体が大きくなるので一</p>

	<p>人当たりのスペースが狭いということ、耐震補強により教室が狭くなっていること、雨漏り等が発生する時があるというのが心配なところではあります。</p> <p>それ以外では、子どもたちが色々な学びを実現していくという時代になっていくと思うので、うまく使えるような施設づくりというか、内容を検討していただくと、今の子どもたちだけではなく、この先に学校に通う子どもたちが、より色々な学びを経て大人になっていくと思うので、この学校整備計画を基本に、ここからみんなで想像し、多少夢を見て、楽しいことも取り入れられると良いかと思えます。</p>
河合委員	<p>先ほどから話題に出ているフリースペースとかトイレについて学校でもよく話題になります。フリースペースについては場所の確保の問題もあるけれども、教室に行かれない原因の一つはやはり人間関係かなと思われる子どもたちもいて、配置なども考えながら検討しているところです。</p> <p>体育館のトイレについては、西鎌倉の町内会の方でも防災に関心が高く、避難所についても一度見直し、検討しますとお話がきているところです。</p> <p>今、保護者による学校アンケートを取りまとめたところですが、保護者からも体育館のトイレについては洋式がないのを改善して欲しいということが言われており、地域開放や避難所として考えても必要なことだと思いました。</p> <p>また、夏の暑さは年々厳しくなっており、体育館での熱中症の危険を考えると、空調もあると理想的だと思います。</p>
掛札委員	<p>前日も申し上げたように、今後、学校の施設等がどういう風になっていくかということを見える化していただいたことが有難いというのが、一番思うところです。</p> <p>学校側としては、子どもが学ぶスペースについて気になっていたところです。机のフックにカバンや体育館履きをかけると、隣のスペースがなく、少し動く子どもと当たったりする。子どもたちがまず学校に来て何をするのかと考えた時、そのスペースに関してご意見いただけたのが非常に嬉しく思いました。このあたりは、私たちも一番見ていかなければならない基本的な部分かなと思っています。</p> <p>防災に関しては皆さんが言われている通りで、学区の自治会長さん達による第二小での体験では、床の足音がうるさい、もっと多くの人が入ったらトイレは足りないという意見も聞かれ、実際に災害が起きた時はどうなるかなという話もありました。避難所から遠くなると、高齢になって自分の足がどうかという話もあり、学校施設の部分でどう対応していけるのかということをお話等伺いながら、自分たちもより一層考えていかななくてはならないということを実際に感じたところです。</p> <p>また学校のフリースペースというのは、最優先事項の一つとしてこれからも実施させていきたいと考えています。</p>
梨本委員	<p>今月は、福島の大熊町に行ってきました。原発に近いこともあり、多くの補助金が出ているということもあるのですが、素晴らしい学校図書館を中心にした、小・中学校、学童等を見学して来ました。校内の施設・設備がいつでもいつでも利用でき、特別支援学級に在籍している子どもも利用できるようになっているし、それから体育館の床は避難所として利用しやすい素材で、エアコンも入っていました。お話をうかがった先生は、大震災の時は他の学校にいらしいのですが、こういう体育館等は避難する住民であふれ、その中で亡くなった方もいたということです。そういう意味でトラウマになっており、先生方ご自身も被災され</p>

	<p>ており、児童・生徒もいるし、住民もいるし、ものすごい状態だと思います。</p> <p>私は、元々は社会教育ベースなので、民間の体育館とか学校外の施設もぜひ活用していただければと思います。学校施設としても充実させ、もちろんトイレもエアコンも大事なことだと思いますので、ぜひ予算の許す限りで、避難所になる、学校が地域の核となるということになりますので、ぜひ充実をお願いしたいと思います。</p>
高橋会長	<p>たくさん具体的なお話をいただいたところで、最後に倉斗先生の方からコメントをいただきたいと思っていて、例えばトイレの話にしてもスペースの話にしても、建築の方々が多く研究されていて、そういう知見を踏まえると、このような計画に具体的な何か言葉として盛り込んでおくといい、こういう文言として入れておく計画が生きてくるのかなという点でご意見いただければと思います。</p>
倉斗委員	<p>そもそもなぜ避難は体育館にするのだろうかという点について逆に教えていただきたいのですが、居住性としては良くない場所だけどたくさん入るからだとか、昔の学校だと上に建物が乗ってないので構造的にも安全なのだろうかとか、そういう安全性から体育館が選ばれていたのだろうかなどは思います。体育館を避難所という刷り込みもあって、体育館をまずどうにかしなければということですが、校舎の建て替えをやる時に体育館を先行するという事例があります。そうすると、敷地も狭い中で、先に体育館ができて、これを壊せないという話になると、ものすごくコストがかかる建て替えになってしまったりとか、ハード面での難しさだったりあるので、避難所イコール体育館のような考え方も見直しながら、今後の考え方、学校全体のどこに避難所を設置するかということを検討する必要があるかなと思います。学校全体を地域の拠点、避難の拠点として考えて計画していきますということをしつかりとやっていくといいのかなと皆さんの議論を聞いておりました。</p> <p>空調をつけることも、その前に断熱化が必要で、薄い壁のところには空調をいくらつけても、ということがあり、断熱化とか環境配慮をした形の建て替えというのを進めることが今後必要になるだろうと思います。</p> <p>トイレに関して、我々は洋式化をドライ化と言ったりもするのですが、一方、和式は汚れた時は水を流す掃除方法で、ウェットなトイレという言い方をしたりします。洋式化することで衛生面が向上するという視点でドライ化を進めると考えていただいたらと思います。あと今議論になるのはジェンダーの話ですが、それについても洋式が対応しやすいと思います。そういう配慮も含めて、全部を洋式にしないまでも、必ずどこかに設置することが必要で、汚いからとか慣れていないからだけではないと考えております。</p>
黒木委員	<p>避難所が公立学校の体育館というのは、行基本的には行政の管轄のところが第一優先というのと、小学校や中学校がないところはないので、そういう理由で決まっていると聞いたことがあります。</p>
事務局 (高橋教育長)	<p>体育館ですが、今回の能登の時もそうだったのですが、本来は1月9日に3学期のスタート予定だったのが、百何十校が再開できなかったという状況です。</p> <p>年末に学力調査の結果が出て、コロナ禍で学校を休校していた期間が短ければ短い国ほど、子どもたちのWell-Beingとか学力もそうなのですが、非常に高かったということで、日本は賞賛されるべき成果だったと考えています。</p> <p>今回の震災の機会でもそうであり、いかに早く学校を始められるかというのが、子どもたちの心の安定と地域においても子どもがいる場所で復旧ということにならないので、学校を早く始められるようにするというのが東日本もそうで、</p>

	<p>みんなの願いなのかなと思っています。教室には正直、冷房もあり、環境的には大変良いということになるのですが、酷暑の中、体育館で過ごすこともできないという状況であれば当然、校舎も活用して命をつながなければならぬということになるのでしょうか、基本的には、我々教育関係者の視点では、まず日常を取り戻すというか、なるべく教室を開けて子どもたちのために使いたいというのがあると思います。そこは、そうも言っていない、命を守らなければいけないというフェーズとの兼ね合いということになるし、特別教室等を使っていたら、実際に発生した場合は、臨機応変にやっていたらいいということではあると思っており、ただ基本としては子どもたちのために教室を開けたいというのが我々の願いだということです。</p>
高橋会長	<p>ありがとうございました。ここまで意見を伺って、修正すべき点や整理していく点があるかもしれませんが、大体皆様の意見はここで出揃ったということでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>パブリックコメントにもあるのですが、太陽光発電パネルについて、計画のどこかに触れているのでしょうか。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>13ページをご覧いただきたいのですが、第3章として、学校施設整備に当たっての考え方という中で整理をさせていただいており、(5)SDGs 未来都市として持続可能な取組みとして、太陽光発電を含め、さまざまな取組をしていくということを書かせていただいております、基本的にはこういうことを目指していくという基本的な考え方の中には示しています。</p>
佐藤委員	<p>以前、深沢小学校の地域防災訓練に行った際、防災倉庫の向きを変えてもらったら、太陽光パネルが逆になって意味がないという話をされていたので、今後、設置の際には、向きを最初から検討していけると良いのかなと思います。避難物資がすぐに取りれないという問題点があると話を聞きました。</p>
事務局 (鈴木次長)	<p>今のお話は、体育館の脇にあるコンテナ倉庫に太陽光パネルが付いているということかと思いますが、ここで書かせていただいているのは校舎全体のことで、向きについては当然、光を受ける方向に合わせて設置しますので、向きを変えたから当たらなくなるということはないと思います。</p>
高橋会長	<p>学校施設として、周辺の設備としてみたいな話があると思いますが、再生可能エネルギーとか、ZEB 基準とかはキーワードとして入っていますし、この辺りは、技術発展が激しく、太陽光発電設備、蓄電池などと書いてある位が適切で、その時々で最も適した技術を採用していくという話かなと思います。ただ方針としてSDGs 未来都市としてというものがキーワードで考えられているのは、国も含めて非常に大きな柱になっていると思いますので、しっかり考えていただきたいなと思っています。</p> <p>本日のご意見を伺っておりますと、多少の修正や文言の整理を要するような意見はあったかと思いますが、大きく内容を変更するものではないと思います。今日は2年間にわたる協議会の最終回になりますので、各委員のご理解が得られれば、修正については私と事務局に一任させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p>
全委員	(了承)
高橋会長	<p>本件に関しては、以上にしたいと思います。続いて今後の手順について事務局より説明をお願いしたいと思います。</p>
内容(2)今後のスケジュールについて	

事務局 (萩原係長)	<p>本日いただきましたご意見を基にして修正作業を行いまして、学校整備計画案として取りまとめを行い、教育委員会等において必要な諸手続きを行った上で3月中に計画として確定する予定です。また、本日の協議会の議事録につきましては、これまで次回の協議会で承認をいただいて確定していましたが、本協議会は本日が最後の開催になりますので、本日分の議事録の確定につきましては、後日メールで案を送らせていただき、修正の有無についてご回答いただいた後、必要な修正を行った上で改めて各委員にご確認をいただき、確定する形を考えております。議事録の扱いについて、この進め方でよろしいかご意見をいただければと思います。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
高橋会長	スケジュールや議事録の確定については事務局の説明通りでよろしいでしょうか。
全委員	(了承)
高橋会長	その他について事務局から何かありますか。
事務局 (鈴木次長)	<p>特にありませんが、本協議会も今日で最後ということで、皆様におかれましてはお忙しいところ、長い間、ご協力いただきありがとうございます。</p> <p>最後に本日出席しております教育長から皆様へご挨拶をさせていただきます。</p>
事務局 (高橋教育長)	<p>改めまして、鎌倉市教育長の高橋です。全8回にわたる鎌倉市学校整備計画検討協議会へのご尽力、ご協力いただきありがとうございます。大変お忙しい中、高橋会長をはじめ各委員の皆さまにはお時間を割いていただき、今日も大変貴重なご意見をいただきましたので、事務局の方でしっかりもませていただき、計画に反映させていきたいと思っております。その後、会長と相談してこの計画を策定という運びとさせていただきたいと思っております。</p> <p>今日、多くの貴重なご意見をいただいた中で、防災に関することを大きなキーワードとしていただきましたので、この部分をしっかり強めていきたいなと思っております。ソフト面でも、様々な避難状況を想定した備品のチェックであったり、防災マニュアルの見直しも専門の先生方のご協力を仰ぎながらやっていったり、避難訓練の実施など、今回の能登地震の教訓を生かして我々も進めていきたいと思ったところです。</p> <p>また、この計画と少し離れますが、今年度の経験として、コロナ明け、数年ぶりにプールを再開させた際、色々なトラブルが鎌倉市というより全国の自治体であり、先生方も大変ご苦労されたところです。やはり、プールの管理は先生方が必ずしもやらなくてはならない仕事ではなく、我々もプール清掃の委託を今回の予算に組み込み、そのようなことで働き方改革を進めるとともに、プールの指導というのは海もある市なので、民間の皆さんと連携しながら指導という面では充実させるなど、少しこの機会にプールに関しても研究させていただいていました。</p> <p>そして、今、市役所の移転が鎌倉市では非常に大きな事項です。これは議会の3分の2の同意を得ないといけない議決案件になりますので、これから議会にも相談ということになるのですが、一方で基本設計は今回の予算にも上げているところで、深沢地区の方に防災という観点を含め移転し、この駅前の良い場所は、様々な人が集まるような夢のある場所、夢のある施設として、大熊町の夢の森のようなところまで行けるかどうかはありますが、夢のある場所を目指しているところです。こういった所とも学校施設との連携を図って、子どもたちの居</p>

	<p>場所となるところを作っていきたいなというふうに思っています。</p> <p>また、教育的な部分では、この計画にも任命時に学校教育指導の重点ということで、教育指導面での大きい方向性と合わせながら、今回の計画を審議いただきましたが、今、教育大綱や教育プランの審議も始まっているところであり、今回、先生方からいただいた観点というのは、これらの大綱やプランにも影響してくる部分であり、我々もしっかりと受け止めて審議していきたいと思っています。</p> <p>今、議論の中で出ているキーワードとして、計画にもワクワクとか主体的で深い学びとありますが、子どもたちが生涯にわたってワクワクしながら学んでいけるということを目指して、そういった教育大綱、教育プランになっていくだろうと思っています。このあたりは、高橋先生や皆さんがご専門だと思いますが、まさに学習者中心の学びというところを実現していく上での施設や設備の在り方ということでもあると思っていますので、我々もワクワクしながら夢を語りながら子どもたちの学びの場というところを思い描いていきたいと思ひますし、この整備計画ができることでかなり前進するところはあると思いますが、一方でこの計画がありつつも、早期に着手しなければならないことも今日ご指摘いただいております、そのような部分は私もしっかり意識していきたいと思っています。</p> <p>少し長くなってしまいましたが、8回にわたる会議へのご尽力、ご協力、本当にありがとうございました。また、この機に個別にご相談させていただくことがあると思ひますので、引き続きお願い申し上げます。</p>
高橋会長	委員の皆様からも2年間を振り返って一言ずつお話しいただければと思ひます。
黒木委員	2年間ありがとうございました。やはり子育てをされていて、1人の子供を大人に育てるまで本当に大変だなと日々感じているところです。学校は子供たちが初めて行く社会としてワクワクする、楽しかったと帰ってくると、親として安心だなと日々感じているところです。今回は施設面についても議論できたというところは、私にとっても勉強になりました。この前、大会で市内の教頭先生や校長先生が集まったのですが、その中に担任だった先生が4人いて、立派な大人になったと言われました。それは分からないですが、1人の社会人として仕事もできているというのを考えると、やはり小学校、中学校ってすごく大事なのかなと思っています。自分はすごく楽しく過ごせたから良かったけれど、今、不登校問題とかもあり、なぜ学校に行かないのと聞くと、保護者も子供が行きたくないと言っているんで、別に無理して行かせないという感じで、そういう親の価値観も色々あって勉強になります。親になって、自分も子供に育てさせてもらっているところなんです。皆さん、ありがとうございました。
佐藤委員	<p>私は幼稚園の父母連の枠から参加させていただき、お兄ちゃんが小学校にも入っているところの視点から見させていただいたので、この学校整備計画が子どもたちにとってより良い形に進んでいくと良いなと思ひました。</p> <p>一点だけ、体育館での怪我率が高くて、今回、息子の骨折もそうだったので、大体みんな腕が折れたとかが体育館で起こっているんです。上履きと体育館の床が合わないとか、そういうところで体育館の床とかも今後考えられるといいのかなと思ったりしながら参加していました。これからまた娘もお世話になりますので、先ほど掛札委員がおっしゃっていたように、広々とした教室で勉強できると良いなと思ひますので、よろしくお願ひします。</p>
實方委員	私は保護者の代表で鎌倉市 PTA 連合協議会から来ております。まずは、そもそも PTA をやり始めたとか、熱を持って動き始めた理由は、私が不登校で学

	<p>校が大嫌いだったのです。先生も嫌い、友達もいないみたいな子どもだったのですが、だからこそ自分に子どもができて小学校に通うと思ったときに、親の責任として、学校は今どういう状況なのか、先生たちはどう思って子どもたちを指導してくれているのか、それを知るためにはただ外から見てもわからないので、中に入って先生たちと話をし、自分の目で確認しようと思って入りました。その年から PTA に入り、委員会に参加したりして、ずっとやり続けています。そうすることで、結果、今回2年間の協議会に参加させていただき、保護者の方や専門家の先生、行政の方と話をする機会を得られたことがとても大きな経験になったと思います。ただ私は保護者の立場でしかわかりませんので、この計画をもって今の子どもたちもこれからずっとつながっていく、子どもたちのこともよりよく見ていただけるような計画にして、これからは色々な大人が関わって子どもたちが色々な学びを得られる、そのような鎌倉市になったら良いなと思っています。</p>
倉斗委員	<p>ここに来て、皆さんの顔を見て議論するということがあまりできず申し訳なかったと思っておりますが、今日、まとめを拝見して非常にいい内容になったのだなと思って、改めて嬉しく思っています。私は建築の分野として学校で仕事をしているのですが、実は小学校の先生になりたかったのです。私は4回くらい小学校を転校しており、色々な学校、色々な先生や友達と会ってという経験があり、逆に私は学校が大好きだったのです。それが建築という側から学校を見るようになって、その時は児童とか生徒の側の視点で学校のことを考えたり、研究テーマとして選んだのですが、子どもができて今度は親目線で見えるようになったり、さらに地域の人たちと関わるようになってくると、先ほどの体育館の話ではないですが、地域のコミュニティ活動を一緒にやっている人から直接メールが来て、うちの避難所は中学校の体育館なのだけど、台風で絶対屋根が飛ぶと思うのですが、それでも避難したほうが良いと思うかという問い合わせが来ることもあります。コロナ禍で、大学に入ってはいけないという状態になり、オンライン授業をやって、オンラインもそれなりにメリットがあると思うこともありました。そうになると、建物とか施設を作る我々としては、ではなぜ学校をつくるのだろうと思うようになってきて、先ほどの話にもありましたが、お金もかかるし、人もいないし、地球環境にも良くないとか考えると、オンラインで良いのかもと思った瞬間もあったのです。しかし、学校が再開してみて、小学校の調査で子どもたちを見ると、建物をわざわざ建てて、毎日朝起きて同じ時間に学校に行かせることの価値がこの場所にあるということをもっと高めていかなければいけないと思いました。それなので、今回の計画もそうですが、今後は、よりここに集うこと、この空間と一緒にいることの価値というものを考えて学校を整備していきたいなと思っています。</p>
掛札委員	<p>私は1年間だったのですがありがとうございました。2月上旬に会議に参加させていただき、そこで県知事さんが、神奈川県はインクルーシブルの取り組みは非常に早かった、そういったことは前面に打ち出していくというお話を伺いました。そういう会の中ではオール神奈川という言葉があったり、神奈川の子どものためのという言葉があったりしました。この会議に参加させていただき、同じように鎌倉の子どものためにオール鎌倉というような、それぞれの立場の方の目線から意見を伺いながら論議を深めていけることが非常に有効であり、自分も参加させていただいて良かったと感じているところです。社会に開かれた教育課程という言葉がどう具現化していけば良いのかというのは、日々この立</p>

	<p>場だと悩むところもあり、学校って何やっているのとか、壁が高い部分もあるのかなとか、色々なところでなるべく多くの方のお話を伺いながら、学校というものはこれから進めていかななくてはならないと思っています。なかなか学校に来にくい子どもたちが増える中、その子供たちがいかに行ってみようかという場にしていけるかというのは、私たちの非常に大きな課題になっているところであり、ぜひそのような課題をクリアしていくためにも、このような場が私は個人的にどうか、職員として助かったなというのが一番の感想です。</p>
河合委員	<p>この会議が始まった初回に分厚い資料を見て、難しく大変な会議になるなと思っていました。ですが、初回にお話したように、私の出身小学校は木造建築で、あの校舎で過ごした日々、池の近くで友達と遊んだりしたことがたいへんいい思い出になっています。子どもたちにそのような心に残る学校かつその時代にあった学びを得られるような学校を作っていくという点ではとても夢のある会議だなと思って参加させていただきました。この資料を見ると、最後は40年後まで入っており、予算の面など、現実的にどこまで実現していけるのか、難しい部分もあるとは思いますが、こうなるとよいという内容が多く入れられているので、できるだけ長生きして未来の学校を見てみたいと思いました。</p>
梨本委員	<p>私も委員の話が来たとき、夢があつていいなと思っていたのですが、実際に話が進んでいくと、防災のこととかシビアな問題が続き、私も専門の範囲で意見を言わせていただきました。今、学生も先生を目指し、できれば鎌倉で赴任したいと言いながら、結局、違う地域に赴任している状況もありますが、人もすごく恵まれている地域だと思うので、良い形でワクワクする学校ができるといいなと思っています。</p>
渡辺委員	<p>私は、教育は専門外で、本当に私が出て良いのかという気持ちで参加させていただきました。40年という計画スパンの中で、長寿命化あるいは大規模改修というものを中心に、これからの学校施設を考えていきたいと思います。安直に統廃合ということではなく、今ある施設をできるだけ生かすというのは、私は良かったと思っています。必要なのは教育内容もさることながら、学校に対して愛着を持ち、それをずっと卒業しても持ち続ける、そのような施設というのが一番良いのだと思います。私は材木座に住んでいるのですが、材木座公会堂という施設があり、それは大正7年、関東大震災前の建築で、当時、材木座住民の寄附で作られたものですが、耐震診断で震度5強の地震一度では倒れなくても、二度来ると倒れるという結果で、集会場等に使っているからまずいねということで、建替え計画のプロジェクトを立ち上げました。しかし、進めていく中で、建替えにしても日照等の関係で同じ規模のものは作れない中でどうするかという議論になり、大正期の木造建築が今どんどん壊されていく中で、意外と文化財的価値があるのではということで文化財課の方に相談したところ、これは価値があるとなり、国の登録有形文化財として国・県・市の補助金を使った大規模改修を行ってリニューアルオープンしました。安直に壊せば、その当時の住民の気持ちで建てられたものが無くなってしまった訳ですが、これが工夫一つで残る、本当に素晴らしいことだなと思いました。学校もしかりで、やっぱり施設を長く愛情を持って大切にしていくことが必要だろうと思います。安く作って、ダメになったら壊すという今風のものではなく、残るようなもの、それがまた卒業した子どもたちが戻ってこられるような、そういう施設になってほしいというのが思いです。</p>
高橋会長	<p>私からも、最後に一言ご挨拶をさせていただきます。今回の計画はこれまで</p>

なかったと伺っており、そのような計画ができたことを非常に喜ばしく思います。これを見ていただいた方から、ここが足りないという部分もあるとは思いますが、あくまでもこれは初版であり、この後、何年かに1度見直してブラッシュアップしていけば、より良い校舎の改修計画、建築計画が上手く進んでいくと思っています。

子どもの方から見れば、我々が子どもの頃と比べたら、より高い能力を社会から期待されている一方、行政としては、予想以上の人口減といった状況、気象・気候の変動が厳しい中で、教育環境を整えていかなければいけないということもあるかと思っています。

一人一人の子どもの姿を見て、どんな子どももご機嫌に学校生活を過ごせる、別に教室に全員いなくても、自分の居やすいスペースで、ご機嫌に、必要な時にみんなと関わって勉強していく、そのような空間になっていくのだろうなと思っています。

少し夢物語のように聞こえるかもしれませんが、デジタル技術を上手に使うことで、テレビ会議システムで中継とかメタバースといった飛び道具的な話ではなく、クラウドを用いた最新のワークソフト、表計算ソフトのようなものを上手に使うことで、不登校の子が学校に少しずつ来るようになってきている事例もあります。その場合、別に教室に入るわけではなく子どもが過ごしやすいスペースが必要ということで、数年前に建てた先進的な校舎において、こういう意味がこの空間にあったのだと先生方が気づくこともあったりする一方で、受け止め側の校舎が非常に狭く、居場所がなくて、また、元の木阿弥みたいな話もあると思うので、教育長のお話にもありました通り、学校施設という大型なものですけれどもハード面の観点、小さい設備からソフト面まで総合的に検討していかなければならないところで、特にこの大きなハードの計画がなかったものに対応できたというのが一番の成果かなと思っています。憧れの鎌倉で話す度に材木座とか素敵な地名が出てきて、うらやましい限りの鎌倉だなと思っていますので、今後の発展を祈念しているところです。

では、これをもちまして第8回鎌倉市学校整備計画検討協議会を終了いたします。2年間にわたりご協力賜りありがとうございました。